



2010年9月27日(月) 開催

テーマ:「2010年『仮説・中東の地政学』」

報告者: 歌川令三(研究顧問)

概要

中東は不磨の大典「コーラン」というひとつの容器に入っているが、個性の異なる多くのイスラム国家の集まりで、それぞれの動きは、まちまちだ。だが、その動き方には、Islamic Dynamism とでも名づけられる“ある種のくせ”、があるように思える。

それは、 $y=f(x_1, x_2, \dots, x_5)$ という多元関数であり、以下の五つの変数の相互作用が、中長期の『中東の地政学』的運動法則 y を決定している、との仮説を設定した。

x1……神とコーランの解釈、これによって、国体も異なる。世俗主義から政教一体のイスラム原理主義に至るまで、国家戦略も異なる。

x2……宗派 特にスンニ派(サウジアラビア)とシーア派(イラン)の相容れない教義の対立。

x3……民族(アラブ、イラン、トルコ)及び国家間の相克。(イスラム圏内での)

x4……国境なき国際グループ、原理主義過激派集団の突き上げ。

x5……異教徒国、米欧露との相克と、イスラエルとの“戦争と平和。”

中東の変転についてそのダイナミズムの構成因子である五つのx因子について、この四半世紀の動きを観察すると、いくつかのかなりはっきりした傾向線(ベクトル)が浮かび上がる。

① 1979年のイランのイスラム革命(世俗・親米から政教一致・反米への大転換)以来もともと政教一致のサウジアラビアは別格だが、その他のアラブ諸国はおしなべて、世俗近代化から徐々に、宗教重視の方向に動いている。またトルコは1923年以来、取り続けてきた完全世俗主義を穏健イスラム主義に転換しつつある。

② イラン、シリアがここ数年協調の度合いを高め、米国とイスラエルに対する対立を激化させる方向に動いている。また、親米、親イスラエルのアラブ諸国のうち、やや米国離れ気味の国も出現しつつある。

③ イラン、サウジの宗派对立激化の兆候が出ており、イランが攻勢、サウジアラビアが防御に回りつつある。

④ アフガニスタンのタリバンの力はますます増大し、米国が支えるカルザイ政権を苦境におとしめ、さらには隣国のパキスタンへの脅威も増大しつつある。

⑤ 原理主義国際派過激派集団、アラブ・アフガンズ(オサマ・ビンラーデン、エジプト発祥のジハード団などアフガニスタンの対ソ連戦争支援の元義勇軍)の里帰りによる母国為政者に対する「内部ジハード」(イスラム原理主義徹底のための武闘)が激化する兆しが出ている。

以上のような変化は一時的な現象ではなく、そのエネルギーの大きさから判断すると5年～10年、あるいはそれ以上長く継続するメガ・トレンドのように見受けられる。

第一にアラブ世界には宗教復古の時代が訪れている。第二にイスラム圏を構成する民族(アラブ、イラン、トルコ)と各国家間の相互の駆け引きは激しくなる。第三にイスラエル、アメリカ、欧州など異教徒国との関係は、イスラム圏構成国によって、それぞれ区々だが推しなべて協調から離反の方向に徐々に動きだしている。その分、ロシアや中国が接近しつつある。

中東は安定よりもむしろ不安定化への道を歩みつつあり、かなりジグザグを続けながら、ムハマドの描いた神が主権を持つ、この世の”理想駅“にむけて終りのない旅を続けるのではないかと見受けられる。

このような問題意識のもとにこれまでの傾向線を延長することにより、2010年代の中東の地政学的状況を主要国別に俯瞰すると以下ようになる。

#トルコ共和国＝国力と中東における地位は、エルドアン の 穏健イスラム主義のもとで大きく増進する。トルコの「新オスマン」路線のスタートであり、中東諸国の“バランスー”のみならず、イスラム圏と米、EU、イスラエルとの関係の調整役になる可能性も。

#イラン・イスラム共和国＝核開発とシーア派の教義で、国力、影響力ともに増大する。対岸のアラブ諸国に“イスラム革命”の輸出を狙っている。

#エジプト・アラブ共和国＝輝けるアラブの指導者エジプトの時代はとうに終わった。ポスト・ムバラク時代は不透明、国力と発言力はさらに低下するだろう。国内では「内部ジハード」が発生、内政でつまづく恐れあり。

#サウジアラビア王国＝国力、発言力ともに低下傾向。これに加えて、イランの核兵器開発の脅威や、国内のシーア派の暴動などが起こる可能性アリ。シーア派は王制を否定しており、王制はかなり揺さぶられるだろう。

#シリア・アラブ共和国＝国力、行動力ともに増大、イランとの蜜月関係はさらに進展、イスラエルにとって脅威は増大する。

#ヨルダン・ハシミテ王国＝ムハマドと血縁関係にある王朝だが、引き続き国力、発言力は低下傾向。国民の60%はパレスチナ難民であり、国体維持が課題になりつつある。

#アラブ首長国連邦＝ペルシャ湾を隔てたイランの軍事力の脅威に神経をとがらせている。

#アフガニスタン・イスラム共和国 & パキスタン・イスラム共和国＝アフガニスタンは「タリバン国」になるだろう。タリバンは国境を接するパキスタンの西側を実効支配、「原理主義イスラム国家」への改変をもくろんでいる。2010年代には、タリバン主導の反政府・武装勢力が首都イスラマバードへと攻勢をかけるのではないか。

#イスラエル国＝ますます高姿勢になる。地中海の領海内に大ガス田発見。鼻息は荒い。平和の道路はない。道路なきところに road map は存在し得ない。あと40年で死海

は干上がるというが、そのときもまだ、イスラム対ユダヤ教の宗教戦争は続いているのかもしれない。

以 上